

2020年4月20日 全8頁

## Indicators Update

# 2020年3月貿易統計

### 新型コロナウイルスの影響で輸出は大幅減

経済調査部                      エコノミスト 鈴木 雄太郎  
シニアエコノミスト 小林 俊介

#### [要約]

- 2020年3月の貿易統計によると、輸出金額は前年比▲11.7%と大幅に減少し、コンセンサス（同▲9.4%）を下回った。季節調整値で見ると、前月比▲4.1%と2ヶ月ぶりに減少した。
- 輸入金額は前年比▲5.0%と11ヶ月連続で前年割れとなった。季節調整値では前月比+7.2%と3ヶ月ぶりに増加した。2月は中国からの輸入が急減し前年比で大幅なマイナスとなったが、3月は同マイナス幅が縮小した。品目別に見ると、価格の急落や需要減を受け鉱物性燃料が押し下げたが、通信機などが押し上げに寄与した。
- 輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比▲6.4%と2ヶ月ぶりに減少した。地域別に見ると、米国向け（同▲8.1%）、アジア向け（同▲5.2%）、EU向け（同▲0.9%）のいずれも減少した。3月中旬以降、欧米各国では新型コロナウイルスの影響によって営業活動が停止しており、日本からの輸出も米国向けを中心に減少した。米国向けでは自動車や同部分品、原動機など資本財を中心に大幅に減少した。そのほかの品目でも軒並みマイナスとなっており、営業活動停止の影響が鮮明に表れている。アジア向けも自動車大幅に減少したほか、原料品などの中間財も下押しした。EU向けでも自動車や鉄鋼などが減少に寄与している。
- 先行きの輸出数量は、当面は新型コロナウイルスの影響によって減少が続くだろう。特に欧米向けの資本財や耐久消費財輸出は4月も大幅な減少が見込まれる。他方、新規感染者にピークアウトが見られる地域では、ロックダウンの緩和を模索する動きが出始めている。徐々に経済活動が再開されれば、それらの地域向け輸出も回復へ転じることとなるだろう。しかしながら、ロックダウンの緩和によって第2波、第3波の感染再拡大のリスクもあり、経済がコロナショック前の状態に戻るには相当な時間を要するとみられ、輸出がショック前の水準に戻るのも先のこととなるだろう。

## 【貿易金額】新型コロナウイルスの影響で輸出は大幅減

2020年3月の貿易統計によると、輸出金額は前年比▲11.7%と大幅に減少し、コンセンサス(同▲9.4%)を下回った。季節調整値で見ると、前月比▲4.1%と2ヶ月ぶりに減少した。3月中旬以降、欧米各国では新型コロナウイルスの影響によって営業活動が停止しており、日本からの輸出も資本財や耐久消費財を中心に大幅に減少した。

他方、輸入金額は前年比▲5.0%と11ヶ月連続で前年割れとなった。季節調整値では前月比+7.2%と3ヶ月ぶりに増加した。3月は価格の急落や需要減を受け、原油や石炭などの鉱物性燃料が全体を押し下げたものの、通信機や電算機類(含周辺機器)などが押し上げに寄与した。2月は新型コロナウイルスの影響で中国国内の工場の稼働が停止しており、中国からの輸入が半減したが、3月は工場稼働が一部で再開されたため、中国からの輸入は前年比のマイナス幅が縮小した。

図表1：貿易統計の概況

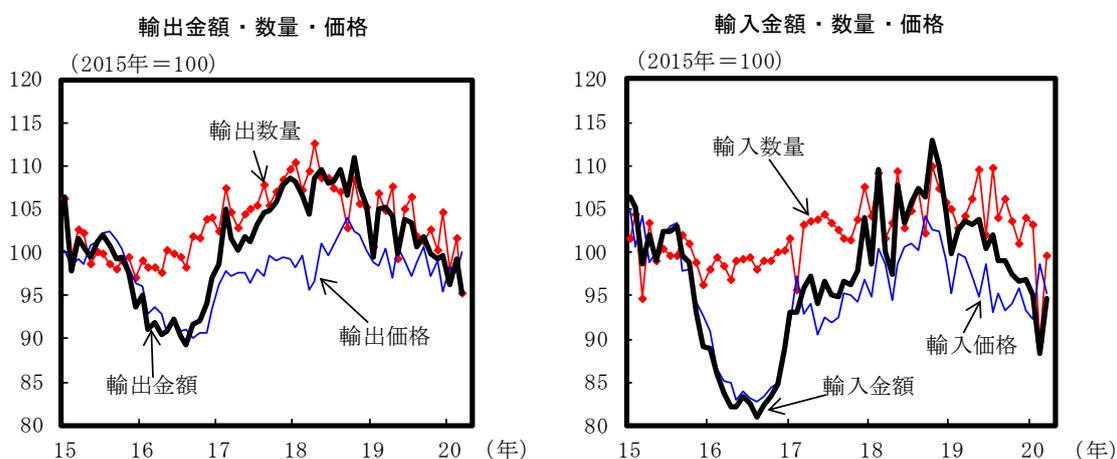
		2019年						2020年		
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
原系列 前年比 %	輸出金額	▲1.5	▲8.2	▲5.2	▲9.2	▲7.9	▲6.3	▲2.6	▲1.0	▲11.7
	コンセンサス									▲9.4
	DIRエコノミスト予想									▲8.9
	輸入金額	▲1.1	▲11.8	▲1.4	▲14.7	▲15.6	▲4.8	▲3.6	▲13.9	▲5.0
	輸出数量	1.4	▲5.9	▲2.3	▲4.4	▲5.0	▲1.9	▲1.6	▲2.4	▲11.2
	価格	▲2.9	▲2.4	▲2.9	▲5.0	▲3.1	▲4.6	▲1.0	1.4	▲0.6
季節 調整値 前月比 %	輸入数量	6.6	▲6.1	6.7	▲6.1	▲8.1	1.2	▲1.7	▲17.3	▲2.5
	価格	▲7.3	▲6.1	▲7.7	▲9.2	▲8.2	▲6.0	▲1.9	4.1	▲2.5
	貿易収支(億円)	▲2,539	▲1,522	▲1,291	112	▲884	▲1,591	▲13,151	11,088	49
	輸出金額	▲0.5	▲2.6	1.2	▲2.0	▲0.6	0.6	▲3.6	3.2	▲4.1
	数量	1.3	▲4.2	▲0.5	1.3	▲2.2	4.3	▲6.3	3.8	▲6.4
	価格	▲1.8	1.7	1.8	▲3.3	1.7	▲3.5	3.0	▲0.6	2.4
季節 調整値 前月比 %	輸入金額	1.5	▲3.0	0.1	▲1.7	▲0.7	0.2	▲1.9	▲7.0	7.2
	数量	7.7	▲5.3	2.1	▲2.3	▲2.7	3.0	▲0.8	▲13.0	11.0
	価格	▲5.7	2.4	▲1.9	0.7	2.0	▲2.7	▲1.1	6.9	▲3.5
	貿易収支(億円)	▲1,520	▲1,235	▲541	▲764	▲677	▲451	▲1,513	4,822	▲1,900
税関長公示レート		108.00	107.21	106.69	107.77	108.76	108.95	109.30	109.50	107.96

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

図表2：輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格(季節調整値)



(注) 輸出数量、輸入数量、輸出価格、輸入価格の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

## 【輸出数量】米国向け輸出が急減、アジア向け、欧州向けも減少

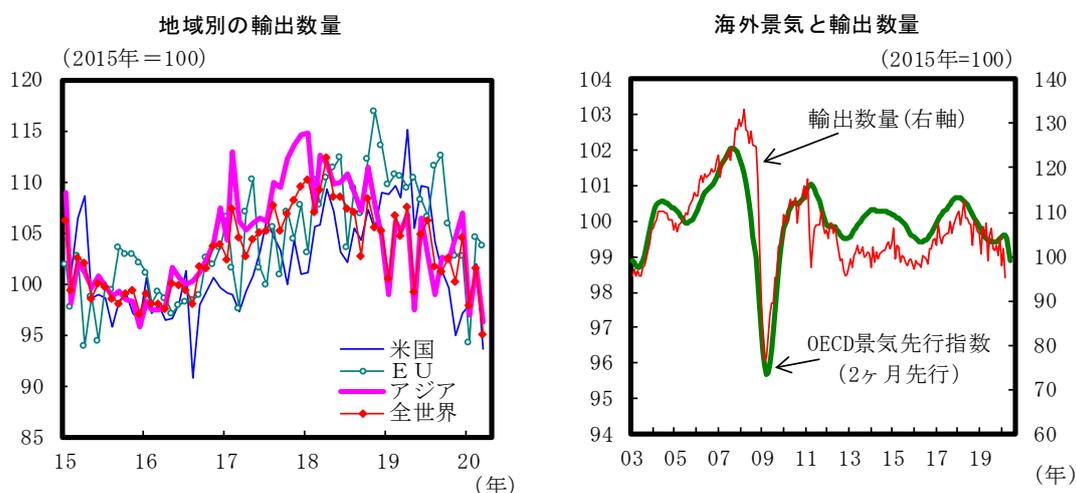
3月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比▲6.4%と2ヶ月ぶりに減少した。地域別に見ると、米国向け（同▲8.1%）、アジア向け（同▲5.2%）、EU向け（同▲0.9%）といずれも減少した。3月中旬以降、欧米各国では新型コロナウイルスの影響によって営業活動が停止しており、輸出数量にもその影響が表れている。米国・EU向けとも2019年初からの減少基調が続いていたが、3月はこれまでの減少基調に加え、新型コロナウイルスによる需要減が一段と下押し圧力となった。また、米国・欧州向けの輸出と比べ、早期に調整局面に入っていたアジア向け輸出に関しても、半導体等電子部品等を中心に底打ちの兆しが見られていたが、単月の動きを見ると、一般機械や自動車など、アジア域内の最終需要が減少したことの下押し圧力が色濃く表れている。

地域別・品目別に3月の動きを見ると、米国向けは自動車や同部分品、原動機などの資本財を中心に幅広い品目で減少した。他方、ウエイトは小さいものの、原料品や化学製品のうち有機化合物などの輸出は増加している。2月の対中輸出向けでも見られていたが、一部品目において、サプライチェーンの寸断によって日本からの代替輸出が行われた可能性がある。

アジア向けは、自動車や一般機械が大幅に減少したことに加え、原料品などの中間財・素材も全体を押し下げた。アジア向け輸出のうち、中国向け輸出に関しては、自動車などが押し上げたものの、自動車の部分品や一般機械が全体を押し下げた。日本国内の自動車工場は3月中は稼働しているところが多く、完成車の輸出は増加した一方、中国国内の自動車工場の稼働率が戻っておらず、自動車の部分品の減少に寄与したとみられる。

EU向けでは、自動車や建設用・鉱山用機械、鉄鋼などが減少に寄与した。減少幅が他の地域と比べ限定的であったのは、自動車輸出の落ち込みが前月比では他地域と比べ限定的であったことが挙げられる。EU向けの自動車輸出は19年12月以降、大幅な減少が続いており、水準が既に低下していた。

図表3：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



(注1) OECD景気先行指数 (CLI) はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

## 【トピック】日本の主力輸出品の自動車が新型コロナウイルスの影響で大幅減

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、世界各国ではロックダウンをはじめ、営業活動の停止が相次いでいる。その影響を受け、各国の自動車販売台数は急減した。国別に3月の新車販売台数を見ると、日本は前月比▲5.4%（以下、季節調整値。米国以外の季節調整は大和総研による）と踏みとどまったものの、米国は同▲33.4%、欧州同▲48.4%と大幅に減少した。また、新型コロナウイルスの発生源である中国は2月に同▲82.6%と大幅に減少し、3月も2月からは回復したものの、感染拡大前の1月対比では4割減と壊滅的な数字となった（図表4右）。

日本の輸出全体に占める自動車の割合は15.7%（2019年実績）であり、同部分品を含めると23.8%に上る。また、地域別に見ると、欧州や米国向けの輸送用機器輸出の割合は大きく（図表4左）、こうした地域での需要の減少が日本の輸出額の減少に与える影響も無視できないほどの規模である。

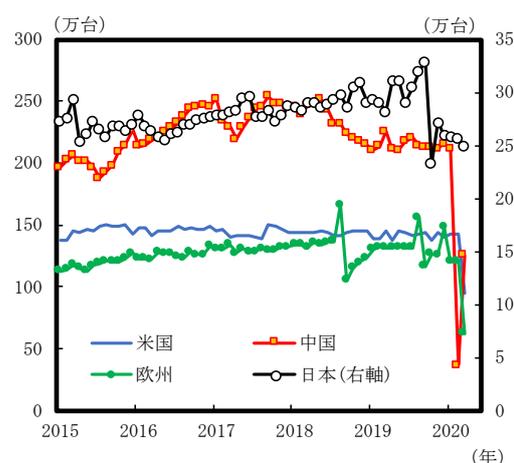
3月の自動車の輸出数量は対世界で前月比▲6.5%（季節調整は大和総研による）となった。地域別に見ると、米国向けは同▲9.8%、EU向けは同▲1.7%、アジア向けは同▲5.2%といずれも減少した。こうした主要地域以外でも軒並み自動車を含む輸送用機器の輸出は減少しており、前年比ベースでは、全体を▲4.4%pt下押ししている。

欧米でのロックダウンの期間は4月下旬までと設定されている国が大半であり、4月の自動車輸出も壊滅的な数字になることが想定され、輸出全体の下押し圧力となろう。一方、新型コロナウイルスの感染拡大がピークを過ぎた中国では、徐々に経済が正常化に向かいつつある。中国では、一部の地域において、自動車購入に対する補助金政策を打ち出している。今後中国全土や欧米でも、感染収束後にこうした政府による購入支援の動きが出てくれば、自動車輸出は回復傾向へ転じるだろう。

図表4：米欧向け輸出構成（2019年）（左図）と各国の自動車販売台数（右図）

	米国		欧州	
	実額(兆円)	ウェイト	実額(兆円)	ウェイト
総額	15.3	100%	9.0	100%
食料品	0.1	1%	0.0	0%
原料品	0.1	1%	0.1	1%
鉱物性燃料	0.1	1%	0.1	1%
化学製品	1.1	7%	0.9	9%
原料別製品	1.0	6%	0.5	6%
一般機械	3.6	24%	2.0	23%
電気機器	2.0	13%	1.5	17%
輸送用機器	5.6	37%	2.5	27%
その他	1.6	11%	1.4	16%

（出所）財務省統計より大和総研作成



（注）季節調整値、米国以外の季節調整は大和総研による。  
（出所）AUTODATA、CAAM、ACEA、Haver Analytics、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

## 【見通し】4月も輸出数量は厳しい状況が続くも底を打つ可能性

先行きの輸出数量は、当面は新型コロナウイルスの影響によって減少が続くだろう。特に主要な最終需要地である欧米ではロックダウン等の措置によって営業活動を停止している状態にある。こうした地域への資本財や耐久消費財輸出は4月も大幅な減少が見込まれる。一方、中国では4月8日に湖北省武漢市においてロックダウンが部分解除されるなど、徐々に正常化への一歩を歩み始めている。また、比較的早期にロックダウンの措置を取ったイタリアやスペインでは新規感染者数がピークを越えつつある。そして、米国やイタリアなどではロックダウンの出口戦略を探る動きも出始めている<sup>1</sup>。今後、こうしたロックダウン措置が出口に向かうことになれば、輸出も徐々に回復していくこととなろう。しかしながら、ロックダウンの緩和による第2波、第3波の感染再拡大のリスクもあり、経済がコロナショック前の状態に戻るには相当な時間を要すると見られ、輸出がショック前の水準に戻るのも先のこととなるだろう。

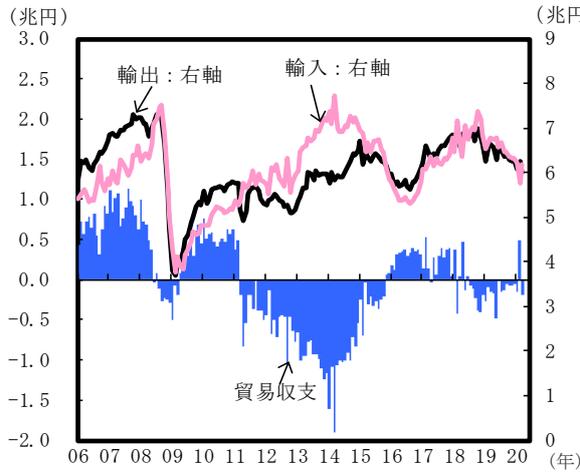
地域別に見ると、アジア向けは3、4月を底に緩やかな回復基調に転じるとみている。中国の感染者の増加ペースは鈍化し、経済は正常化に向かいつつある。特に、電子部品・デバイスなどの電気機器の輸出に関しては新型コロナウイルスが世界的にパンデミックを起こしているなかでも底堅かった。今後も第5世代移動通信システム（5G）向けの需要は旺盛であることが見込まれ、全体を押し上げる要因となろう。他方、米国・欧州ではロックダウンが続いており、最終需要が消失している。こうした状況では、中国向けの中間財輸出は低迷することが見込まれる。

米国・EU・英国向け輸出は4月も大幅な減少となろう。5月以降について、上述の通り、欧米諸国では新規感染者数がピークを越えつつあり、ロックダウンの緩和の動きが模索されている。トランプ大統領は4月16日の記者会見において、感染者が少ない地域から段階的に経済活動を再開することを表明した。ドイツも4月20日以降ロックダウンを徐々に緩和する予定である。こうした動きが拡大すれば、これらの地域向け輸出は4月頃を底に回復基調へ転じることとなろう。ただし、早期に経済活動を再開したばかりに、再び新型コロナウイルスの感染が拡大することになれば、ロックダウンの再開等も予想され、減少基調も継続しよう。

<sup>1</sup> 詳細は大和総研レポート ロンドンリサーチセンター 菅野泰夫「[新型コロナウイルスが収束し始めた欧州](#)」（2020年4月9日）を参照。

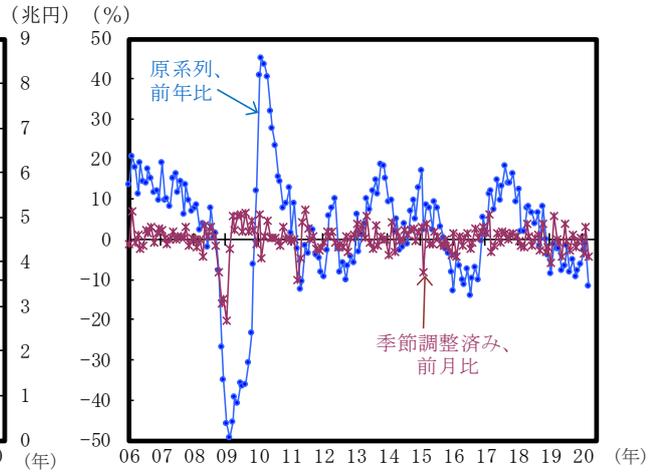
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

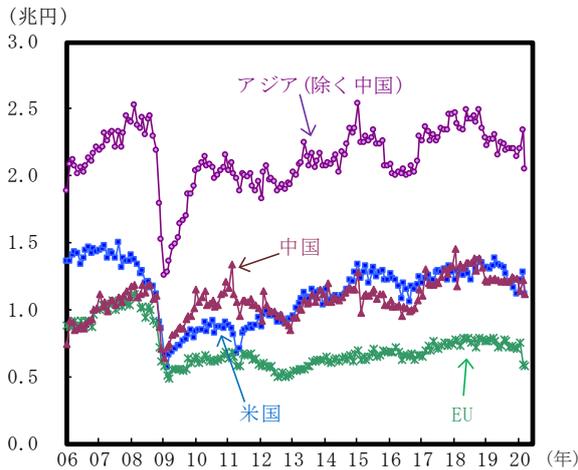


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

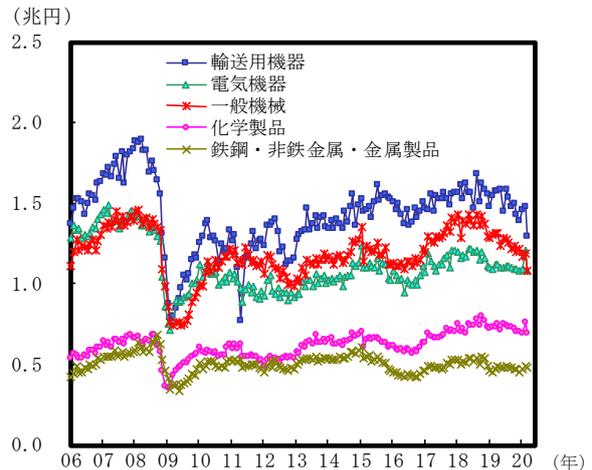


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

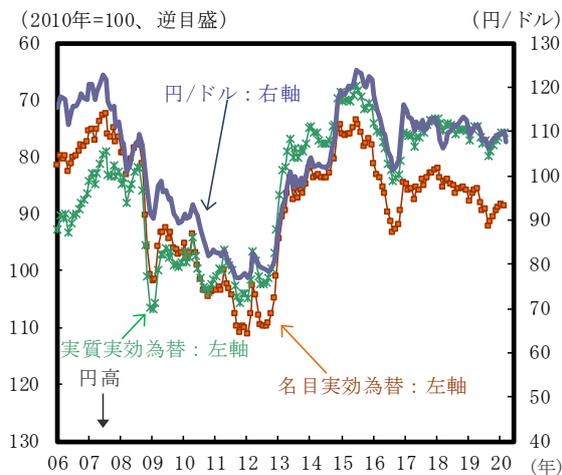


(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)

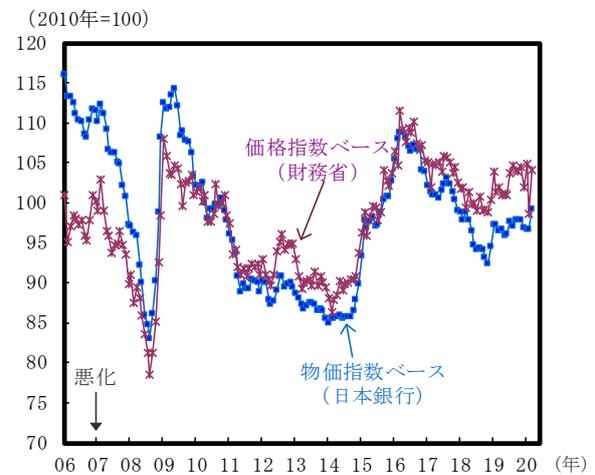


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。  
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件



輸出金額 内訳								
	2019/10	2019/11	2019/12	2020/01	2020/02	2020/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲9.2	▲7.9	▲6.3	▲2.6	▲1.0	▲11.7	100.0	▲11.7
食料品	▲5.1	1.2	1.9	▲5.5	▲0.8	▲9.5	1.0	▲0.1
原料品	▲16.6	▲15.6	▲17.2	10.9	7.9	▲4.9	1.5	▲0.1
鉱物性燃料	14.0	10.0	▲9.1	▲5.1	▲17.1	▲5.5	1.6	▲0.1
化学製品	▲9.7	▲7.4	▲4.8	▲4.5	3.3	▲5.2	11.8	▲0.6
原料別製品	▲13.4	▲11.1	▲9.1	▲1.9	4.1	▲2.1	11.8	▲0.2
鉄鋼	▲16.7	▲18.2	▲13.3	▲4.0	8.9	7.3	4.6	0.3
非鉄金属	▲10.7	▲0.3	1.4	14.1	22.0	5.1	2.1	0.1
金属製品	▲13.7	▲7.9	▲10.1	▲3.2	▲3.5	▲13.2	1.5	▲0.2
一般機械	▲12.9	▲12.0	▲6.2	▲9.5	▲8.8	▲17.9	19.9	▲3.8
電気機器	▲8.3	▲5.4	▲3.3	▲1.1	9.8	▲3.5	17.8	▲0.6
半導体等電子部品	0.6	▲0.3	2.6	1.4	23.2	6.3	5.4	0.3
I C	3.6	▲1.3	3.9	4.3	21.4	6.0	3.7	0.2
映像機器	▲9.8	▲13.0	▲17.5	▲6.7	0.3			
映像記録・再生機器	▲8.8	▲12.6	▲14.8	▲2.5	4.9	▲27.8	0.3	▲0.1
音響・映像機器の部分品	▲19.3	▲13.8	▲3.1	▲14.7	7.1	0.1	0.3	0.0
電気回路等の機器	▲13.6	▲11.7	▲5.6	▲1.1	5.0	▲8.7	2.4	▲0.2
輸送用機器	▲7.4	▲9.7	▲10.7	▲2.1	▲4.1	▲18.2	22.5	▲4.4
自動車	▲9.6	▲7.0	▲11.8	▲4.7	▲4.0	▲13.1	15.1	▲2.0
自動車の部分品	▲11.3	▲8.8	▲10.9	▲4.2	▲3.6	▲17.9	4.4	▲0.8
その他	▲6.3	▲1.5	▲0.8	5.8	▲2.0	▲15.0	12.1	▲1.9
科学光学機器	▲10.9	▲4.1	2.1	0.1	6.4	▲8.8	2.7	▲0.2

米国向け輸出金額 内訳								
	2019/10	2019/11	2019/12	2020/01	2020/02	2020/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲11.4	▲12.9	▲14.9	▲7.7	▲2.6	▲16.5	100.0	▲16.5
食料品	4.9	▲4.7	▲4.7	▲9.8	18.9	▲8.2	0.8	▲0.1
原料品	▲8.8	34.2	0.4	70.3	41.5	34.6	0.9	0.2
鉱物性燃料	1397.4	▲21.1	▲12.0	▲9.8	21.6	▲44.9	0.4	▲0.3
化学製品	▲5.3	4.2	▲13.7	▲6.8	11.9	▲4.6	6.9	▲0.3
原料別製品	▲8.7	▲2.9	▲10.6	▲4.9	▲0.6	▲15.5	6.7	▲1.0
鉄鋼	▲19.7	▲23.1	▲25.1	▲34.7	▲21.4	▲31.6	1.2	▲0.5
非鉄金属	▲5.9	9.8	▲18.6	20.4	29.6	▲19.2	0.8	▲0.2
金属製品	▲3.9	13.1	10.1	19.7	1.1	▲2.5	1.8	▲0.0
一般機械	▲4.8	▲14.1	▲10.3	▲9.0	▲5.6	▲20.4	23.4	▲5.0
電気機器	▲15.9	▲10.1	▲12.6	▲2.6	8.6	▲2.1	15.6	▲0.3
半導体等電子部品	▲11.7	▲17.5	▲15.0	▲7.8	▲6.5	▲12.0	1.6	▲0.2
I C	▲10.9	▲18.3	▲16.9	▲3.1	▲12.0	▲13.9	0.7	▲0.1
映像機器	▲4.9	11.1	▲8.0	6.8	15.7			
映像記録・再生機器	▲9.7	10.0	▲4.9	8.5	16.9	▲6.0	0.6	▲0.0
音響・映像機器の部分品	▲26.1	▲16.5	▲30.5	▲26.5	12.1	11.2	0.2	0.0
電気回路等の機器	▲13.1	▲14.2	▲14.3	▲5.0	3.5	▲11.3	1.5	▲0.2
輸送用機器	▲17.1	▲16.9	▲20.0	▲14.9	▲7.9	▲21.7	35.1	▲8.1
自動車	▲17.7	▲17.1	▲21.4	▲18.5	▲9.2	▲23.7	25.8	▲6.7
自動車の部分品	▲12.9	▲18.9	▲20.4	1.4	2.9	▲17.5	5.9	▲1.0
その他	▲13.8	▲15.4	▲13.0	13.5	▲4.4	▲16.0	10.0	▲1.6
科学光学機器	▲10.7	▲10.2	▲14.1	5.9	1.3	▲9.7	2.3	▲0.2

EU向け輸出金額 内訳								
	2019/10	2019/11	2019/12	2020/01	2020/02	2020/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲8.4	▲8.0	▲8.1	▲1.8	▲23.9	▲26.5	100.0	▲26.5
食料品	▲13.6	▲11.3	4.3	26.1	▲16.5	▲16.4	0.5	▲0.1
原料品	▲7.3	▲9.1	▲2.8	▲16.1	▲17.2	▲16.1	1.0	▲0.1
鉱物性燃料	▲52.8	43.3	64.1	▲92.1	▲69.0	▲49.1	0.6	▲0.4
化学製品	0.1	▲5.6	▲7.5	15.3	▲0.0	▲11.9	11.5	▲1.1
原料別製品	▲14.6	▲12.9	▲9.6	▲11.9	▲16.6	▲21.6	6.3	▲1.3
鉄鋼	▲29.7	▲6.7	30.7	▲43.4	▲2.0	▲22.1	0.8	▲0.2
非鉄金属	▲10.9	▲18.8	▲4.4	21.2	▲31.7	▲7.3	0.8	▲0.0
金属製品	▲8.1	▲14.8	▲29.1	▲11.8	▲21.1	▲30.3	1.4	▲0.4
一般機械	▲20.3	▲19.9	▲16.9	▲16.1	▲27.1	▲32.1	22.1	▲7.7
電気機器	▲14.5	▲11.0	▲9.8	▲6.7	▲19.3	▲20.3	18.3	▲3.4
半導体等電子部品	▲14.0	▲7.7	▲7.3	▲5.6	▲0.4	▲18.9	2.1	▲0.4
I C	▲19.0	▲12.5	▲12.7	▲19.9	▲10.5	▲30.6	0.8	▲0.3
映像機器	▲12.0	▲33.0	▲19.8	▲18.5	▲7.6			
映像記録・再生機器	▲12.1	▲34.6	▲15.9	▲19.7	4.5	▲23.8	0.6	▲0.1
音響・映像機器の部分品	6.8	25.6	21.9	▲1.6	0.7	▲31.0	0.2	▲0.1
電気回路等の機器	▲26.4	▲19.7	▲11.3	▲13.4	▲23.5	▲27.4	1.5	▲0.4
輸送用機器	5.8	9.2	▲5.2	▲4.3	▲26.0	▲24.1	26.7	▲6.2
自動車	12.8	11.7	▲4.4	▲15.8	▲28.6	▲32.5	14.9	▲5.3
自動車の部分品	▲5.2	16.9	▲3.5	▲1.4	▲13.0	▲8.1	6.8	▲0.4
その他	▲5.0	▲13.5	2.7	28.7	▲35.2	▲38.9	13.1	▲6.1
科学光学機器	▲15.2	▲9.2	▲8.6	▲4.7	▲0.7	▲23.0	3.5	▲0.8

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2019/10	2019/11	2019/12	2020/01	2020/02	2020/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲11.2	▲5.7	▲3.6	▲3.2	1.7	▲9.4	100.0	▲9.4
食料品	▲6.1	2.0	3.2	▲7.8	▲5.0	▲11.6	1.3	▲0.1
原料品	▲19.3	▲20.7	▲20.1	8.9	4.0	▲11.2	2.1	▲0.2
鉱物性燃料	▲15.2	11.0	▲10.1	28.6	9.6	20.5	1.8	0.3
化学製品	▲12.0	▲8.8	▲2.7	▲7.8	0.1	▲6.0	15.8	▲0.9
原料別製品	▲15.1	▲13.6	▲10.1	▲3.9	4.1	▲1.8	14.6	▲0.2
鉄鋼	▲18.4	▲20.5	▲16.0	▲6.8	7.0	5.0	6.0	0.3
非鉄金属	▲13.6	▲5.5	0.0	9.9	20.1	7.5	3.3	0.2
金属製品	▲13.2	▲9.6	▲10.7	▲8.9	▲3.5	▲15.0	1.6	▲0.3
一般機械	▲13.0	▲6.9	0.1	▲6.3	▲8.9	▲17.2	20.2	▲3.8
電気機器	▲6.4	▲3.9	▲1.3	▲0.0	14.8	▲1.5	21.9	▲0.3
半導体等電子部品	1.7	1.0	4.3	2.2	26.9	9.0	8.8	0.7
I C	4.9	▲0.4	5.3	5.3	24.3	8.3	6.3	0.4
映像機器	▲12.3	▲23.1	▲27.0	▲13.3	▲14.3			
映像記録・再生機器	▲6.5	▲15.1	▲18.3	▲1.3	▲5.2	▲43.8	0.2	▲0.1
音響・映像機器の部分品	▲18.4	▲14.9	2.7	▲9.8	8.6	1.5	0.4	0.0
電気回路等の機器	▲13.1	▲10.1	▲4.8	1.4	8.5	▲6.2	3.4	▲0.2
輸送用機器	▲15.0	▲4.8	▲15.7	▲3.6	2.3	▲21.2	8.5	▲2.1
自動車	▲15.9	▲1.0	▲4.3	7.0	7.8	4.1	4.8	0.2
自動車の部分品	▲16.1	▲11.7	▲13.7	▲12.6	▲6.8	▲30.7	2.8	▲1.1
その他	▲7.8	3.1	4.0	▲3.5	▲1.6	▲13.3	13.8	▲1.9
科学光学機器	▲9.8	▲0.5	8.8	▲0.4	8.5	▲6.0	3.4	▲0.2

中国向け輸出金額 内訳								
	2019/10	2019/11	2019/12	2020/01	2020/02	2020/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲10.4	▲5.4	0.8	▲6.4	▲0.4	▲8.7	100.0	▲8.7
食料品	16.7	27.8	28.4	0.4	▲17.0	▲1.2	0.8	▲0.0
原料品	▲52.4	▲57.8	▲52.8	▲3.2	▲24.4	▲36.9	1.6	▲0.8
鉱物性燃料	10.2	▲49.4	▲44.5	▲30.5	▲34.0	▲33.1	0.7	▲0.3
化学製品	▲6.6	▲4.5	2.4	▲8.9	▲1.6	▲5.9	17.2	▲1.0
原料別製品	▲8.1	▲2.8	▲0.1	▲8.4	▲1.8	▲6.1	11.5	▲0.7
鉄鋼	▲17.6	▲13.3	▲1.4	▲0.9	3.6	2.0	3.5	0.1
非鉄金属	9.4	22.2	9.7	▲9.7	▲1.9	11.8	3.1	0.3
金属製品	▲6.2	▲0.6	▲3.3	▲15.8	▲8.1	▲18.6	1.6	▲0.3
一般機械	▲13.4	▲6.1	7.6	▲3.5	▲13.3	▲14.7	24.2	▲3.8
電気機器	▲9.6	▲6.5	▲3.4	▲5.6	17.1	▲1.5	21.5	▲0.3
半導体等電子部品	▲11.2	▲10.0	▲10.1	▲8.2	31.6	14.5	7.4	0.9
I C	▲13.6	▲17.2	▲17.1	▲10.0	26.5	17.4	5.2	0.7
映像機器	▲16.5	▲20.8	▲21.8	7.2	▲14.1			
映像記録・再生機器	▲4.2	▲5.8	▲6.0	39.9	8.4	▲48.8	0.2	▲0.2
音響・映像機器の部分品	▲10.6	▲5.9	14.5	▲23.9	11.4	4.2	0.5	0.0
電気回路等の機器	▲14.5	▲12.2	▲2.8	1.2	10.6	▲12.4	3.3	▲0.4
輸送用機器	▲14.4	5.4	9.7	5.8	12.3	▲9.8	9.5	▲0.9
自動車	▲7.4	34.4	36.3	32.0	28.5	19.2	5.9	0.9
自動車の部分品	▲21.1	▲16.4	▲11.5	▲17.8	▲4.4	▲37.6	3.4	▲1.8
その他	▲4.9	0.9	4.4	▲14.9	2.1	▲6.8	13.0	▲0.9
科学光学機器	▲12.6	▲0.4	14.9	▲2.6	6.0	▲3.1	5.0	▲0.1

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成